

第 8 9 回 連携会議記録

日時 2 0 1 8 / 3 / 1 5 13 : 30 ~

会場 市庁舎 402 号会議室

参加者数 1 9 / 2 3

会議の記録

協議題 1 2 0 1 7 年度版「石狩市の学校間連携」について

提言の内容について、内容について出席者で確認した。また誤字脱字等を訂正した。

出席者より「提言」をもとに研究を深め、市教委に要求をしていく活動をしていくの
はどうかという意見があった。

ここで、事務局長より今までの経緯、これからの連携会議の活動のあり方について話
があった。

連携会議は当初から市教委へ要求するなどの活動をする前提ではない。そういった活
動は、協議会がするものであると押さえている。

連携会議は、成果を急ぐより、我々一人一人の知識や考え方を深め地力をつける場
である。行政に対し、何かを要求する時、組織としての力が必須である。その組織を構成
する我々自身が仕事の質を高めたり、知識を深める場である。

しかし、この活動は、行政的な手法ではなく、我々一人一人の総意が集まり、動いて
いくことが理想である、とのことであった。

その後、提言の学校での配布方法等を確認した。

協議題 2 各グループ反省集約に対する見解

調査研修部

・「就学援助の手引き」について

市教委担当者には伝えているので連絡があるはず。年度内は難しいだろうとのこと。

予算要望部

- ・ 予算がついたから終わりではなく、その後その活動はどのように学校内で扱われて
いるのかを注視し、どのような効果があるのかなどを常に考えるべきではないか。
- ・ ワックスがけについて、慣例で教職員が行っているがなぜ学校ではそうなのだろう
か。基本的には業者等、学校支援地域本部等にやってもらうことはできないのだろう
か。
- ・ 予算要望活動について、要望したものはすぐにはつかないかもしれないが、長い時
間をかけ、ついているものが多い。この現状を学校内にも伝え、予算要望活動をやっ
ても無駄という気持ちを持たないことが大切では。

研究部

- ・ 研究の方向性、来年度のテーマについて
 - ・ P F シート、予算書の交流は継続する。
 - ・ 予算要望に係わり、市教委との協力の仕方などを工夫し、成果を上げることがで
きたら、それが研究にならないだろうか、という意見があり。この件については、ど
のようにするかよく考え、あせらないことがよいのでは。

連絡 ・ 夏季研修会が石狩市のサマーセミナーとなる予定である。